

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (地域公共領域)

学習・基盤教育 教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技能と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポーツ健康	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S925103	平本 譲	社会福祉援助技術演習	社会福祉援助技術を確実に身につけるために、演習を通して、様々な場面への応用を学んでいく。	地域公共領域の専門科目として地域において社会福祉を実践していくための、基本的な援助技術の習得と、実践への準備となる。社会福祉実習やプロジェクト研究と連動して、地域での実践力を高める。	・社会福祉援助技術をよりしっかりと身につける ・社会福祉援助の現場において実践できる力をつける	0	0	0	0.1	0.1	0.3	0.2	0.3
S859003	陣内雄次	住宅政策論	日本及び海外の住宅政策の変遷、課題、将来の見通しなどについて講述する。	地域公共領域の専門科目の一つとして、住宅政策への幅広い興味関心を喚起する。	・日本、欧米諸国の住宅政策に関する知識を得るとともに、住宅政策への関心を喚起する。	0	0	0	0.3	0.3	0.1	0.2	0.1
S858503	陣内雄次	地域居住論	地域の居住環境を幅広い観点からとらえ、まちづくり、市民参加の手法、都市計画関連法規、街並み景観、NPO・ボランティアなどを取り上げる。	地域公共領域の専門科目の一つとして、住まいと街環境への幅広い興味関心を喚起する。	・まちづくり、市民参加の手法、都市計画関連法規、街並み景観、NPO・ボランティアなどに関する知識を得る。 ・課題への取組を通して、より良い地域居住環境づくりのための関心を高める。	0	0	0	0.3	0.3	0.1	0.1	0.2
S825152	松村啓子	地域調査実習	フィールドワークの手法の体験的修得をめざし、特定の市町村に向いて受講者自らが設定したテーマに関する実地調査を実施する。	地域公共領域における専門科目で、社会教育主事資格を取得するための選択必修科目。地域が抱える諸問題にアプローチするための実践的な調査方法を身につける。	・追究課題に応じた統計情報を収集し、加工することができる。 ・目的に応じた主題図のさまざまな表現法を理解できる。 ・聞き取り調査やアンケート調査の結果を図表に加工できる。	0	0	0	0.2	0.2	0.0	0.5	0.1
S823009	松村啓子	地理学特講C	農業立地論とその有効性、および農業地域区分について講義する。また日本のコメ作り、肉用牛生産などの地域事例を紹介する。	地域公共領域における選択科目。食料の生産・流通・販売を規定する自然的、社会経済的要因に関する洞察力を身につける。	・食料生産・流通・販売について、当事者の立場、国家政策、市場動向の各々にかんがみつつ理解できる。 ・食料生産・流通・安全性にかかわる制度を理解し、農産物の産地の実態を調査する力を身につける。 ・消費者として、食料生産の現場と食材そのものに対する正しい知識と判断力を養う。	0	0	0	0.3	0.1	0.3	0.0	0.3
S815800	長谷川万由美	社会福祉実習II	社会福祉の学習は、机上の勉強だけでなく、社会福祉の現場に実際に触れることで、福祉の問題をより身近に感じ、解決のための実践的な力を身につけることが必要である。この科目では、他の講義科目等で学んだ内容を生かし、現場で実際に福祉の実践に触れ、また自ら実践してみる。社会福祉実習Iを踏まえ、さらに実践を深める場合に受講するものなので、社会福祉実習Iの履修を前提とする。	地域公共領域の専門科目として、地域福祉論、社会福祉行政、社会福祉学概論など福祉に関連する科目で学んだことを実践で生かす場となる。	・社会福祉の現場での実習を通して、大学で身につけた知識や技術をより確実に身につける ・授業では気付くことのなかった社会福祉の現実の課題を学ぶ ・社会福祉実習IIで学んだ内容をさらに深める	0	0	0	0.1	0	0.5	0.3	0.1

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (地域公共領域)

学習・基盤教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポーツ健康	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S815751	長谷川万由美	社会福祉実習 I	社会福祉の学習は、机上の勉強だけでなく、社会福祉の現場に実際に触れることで、福祉の問題をより身近に感じ、解決のための実践的な力を身につけることが必要である。この科目では、他の講義科目等で学んだ内容を生かし、現場で実際に福祉の実践に触れ、また自ら実践してみる。	地域公共領域の専門科目として、地域福祉論、社会福祉行政、社会福祉学概論など福祉に関連する科目で学んだことを実践で生かす場となる。	・社会福祉の現場での実習を通して、大学で身につけた知識や技術をより確実に身につける ・授業では気付くことのなかった社会福祉の現実の課題を学ぶ	0	0	0	0.1	0	0.5	0.3	0.1
S815600	長谷川万由美	社会福祉援助技術論	社会福祉援助を学んだといえるためには援助に必要な知識、援助の技術、何を基準に援助していくかという倫理が必要である。この授業では、そのうち技術の習得に焦点をあてて行うとともに、社会福祉援助の基盤となる行動規範について考える。またMBTI(R)などを利用して自己理解、他者理解を深める。	専門教育科目として、卒業論文やプロジェクトの実行が必要となる、地域社会や地域公共での実践につながる内容となっている。	・社会福祉援助技術の体系を学ぶ ・社会福祉援助に最低限必要な対人援助の技術の基礎を身につける	0	0	0	0.3	0	0.4	0.1	0.2
S815502	長谷川万由美	地域福祉論	地域福祉の現状と課題を把握し、社会福祉援助技術としての地域援助の方法について学ぶ。	専門教育科目として、地域社会や地域公共を担う行政についての理解を深め、卒業論文やプロジェクト実行への基礎となる科目である。コミュニケーション演習やプロジェクト研究で培った力を実践する。	・地域福祉について自分で問題を発見し、解決方法を検討できる ・地域援助の実践を通じて現場の解決方法を学ぶ ・地域援助の実施過程を通じコミュニケーション力を高める	0	0	0	0.1	0.2	0.2	0.4	0.1
S814506	塚本 純	経済政策論	財政政策・金融政策などの経済政策が、景気や雇用・物価などの経済に与える影響を、マクロ経済学の理論的裏付けを理解した上で学ぶ。	地域社会の様々な問題を理解し考察するにあたり、基礎的な知識・素養を養成するための、教科の選択科目である	・現実の経済政策、とくに財政政策および金融政策の運営についての理解力と判断力を身につけること。	0	0	0	0.5	0.3	0.1	0	0.1
S813505	中村祐司	行政学	現代行政学の基礎的な考え方と体系的な知識について、とくに日本における豊富な事例を紹介しつつ、制度論、管理論、政策論を分かりやすく説明する。	地域公共領域の専門科目として、行政の観点から地域社会を捉える能力を養成するための科目である。国内外の多様な行政活動を知ること、政策形成をめぐる諸課題についての当事者意識を涵養し、地域社会や国家、国際社会に対する社会科学的な視野を広げる点で関連する。	・行政の概念を理解できるができる。 ・現代行政学が成立するに至った現代国家の特質、政治と行政との関係、行政サービスの範囲、政府間関係論、行政官制、行政管理、行政計画、行政能率、行政裁量といった行政学の基礎概念を理解できるができる。 ・現代政府の諸活動についての興味関心を持つことをが出来る	0	0	0	0.2	0.2	0.3	0.1	0.2
S810004	杉田明子	民法Ⅱ	民法Ⅰに引き続き、法律が我々の日常生活の取引活動において、どのように機能しているのかを具体例をもとに明らかにする。	地域公共領域の1専門分野である「法学」に関する専門科目の発展編として位置づけられる。	民法の議論を通じ、自らの法的見解を表明する力を養うこと	0	0	0	0.3	0.1	0.2	0.1	0.3

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (地域公共領域)

学習・基盤教育 学習・教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技能と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポーツ健康	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S809502	渋谷 孝夫	民法 I	民法を始めて学ぶ者に対し、民法の基礎を提供する。	地域公共領域の1専門分野である「法学」に関する専門科目の発展編として位置づけられる。	・民法の基本的な概念や理論を理解すること ・法律的なものの見方や考え方を修得すること	0	0	0	0.3	0.1	0.2	0.1	0.3
	杉田明子	民法	民法の基礎知識を学びながら、日常生活とどのように関わるのか、これらの知識を用いて日々の生活において直面する問題にどのように対応したらいいのか、を考える。	地域公共領域の1専門分野である「法学」に関する専門科目の発展編として位置づけられる。	・民法の基本原則や基礎知識の修得すること ・単に条文の内容や知識を学ぶだけでなく、民法の学習を通じて法的なものの考え方を修得すること				0.3	0.1	0.2	0.1	0.3
S802508	長谷川万由美	社会福祉学概論	社会福祉援助のために必要な要素として社会福祉に関する知識、援助のための技術、何を大事にして援助をするのかという倫理の三つがある。この授業では、そのうち知識に焦点をあてて、社会福祉の理念、制度、歴史、社会福祉援助技術の体系、思想などを考えていく。	地域公共領域の専門科目として、今後、地域社会における社会福祉の問題を考えていく上での入門となる。	・社会福祉を歴史を踏まえて理解する ・日本の社会福祉の法制度や組織について把握する ・社会福祉援助技術の方法論とその背景にある対象把握の考え方を理解する ・現代の社会福祉を考える上で基本となる思想について知識を得る				0.3	0.3	0.2	0	0.2
S801005	森 達也	公共政策論	効率性の実現とその技術に関する議論や、政策自体の望ましさ、民主的な合意、さらには「公共」とはそもそも何なのか、といった問いなどを扱い、主として政治学・経済学・倫理学などから構成される複合的な学問領域である公共政策論について解説する。	地域政策の構想と実践に必要な基本的視座、そして、そのあるべき姿を合理的に議論するための能力を養成するための科目である。	・「公共」の機能とその現状を普遍的な枠組から認識すること ・政策に関する諸々の視点や理念を総合するための基本的な考え方を身につけ、社会政策に関する視野を広げること				0.3	0.2	0.2	0.1	0.2
S578004	良香織	児童福祉論	子どもを取り巻く様々な生活問題を認識し、児童福祉分野による対応施策を学ぶことを目標とする。「児童虐待」など子どもの社会的排除を主とする課題認識を手がかりに、歴史的に築かれてきた「児童福祉」の理念・法律・サービス等に関する理解を深め、ひいては「子どもは他者や社会との善い関係(社会的包摂)が保障されてこそ、ゆくゆく育ちや幸福を経験することができる」という命題を跡付けていく。	児童福祉政策の多くは各種法律に基づくため、それをひとつの参照点として授業を展開する。	・子どもを取り巻く様々な生活問題を認識する ・児童福祉分野による対応施策を学習する。				0.3	0.2	0.2	0.2	0.1
S278302	小原一馬	社会調査実習	量的あるいは質的調査法を学び、調査を企画・実施・分析する。今年は「大学生における自分らしさの生成の認識」というテーマでの調査を予定している。	地域公共領域の専門科目であり、社会調査法の発展的内容である。	量的あるいは質的調査法の基本を学び、調査を企画・実施・分析できるようになる。				0.2	0.5	0	0.2	0.1
S265006	小原一馬	社会学特講	個人と社会の関係を教育現象に着目することで考える。	地域公共領域の専門科目のひとつであり、教育を社会と個人の関係から見ていく能力を育む。	教育を、個人の視点からだけでなく、社会というレベルで見られるようになる、つまり社会的な見方で見られるようになること。				0.2	0.5	0	0.2	0.1

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (地域公共領域)

学習・基盤教育 学習・教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技能と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポーツ健康	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S263500	塚本 純	経済学特講B	政府部門を含んだ経済分析としての公共経済学の初歩を解説することが主な目的であり、あわせて、価格理論を中心とするミクロ経済学の基礎についても解説する。	地域社会の様々な問題を理解し考察するにあたり、基礎的な知識・素養を養成するための科目である。	・現実の経済事象を理解する能力や経済に関する理論的分析力の基礎に基づき、政府が関与する活動の意義や具体的活動内容について理解すること。				0.5	0.3	0.1	0	0.1
S263003	塚本 純	経済学特講A	経済学の基本的な知識について解説する。	地域社会の様々な問題を理解し考察するにあたり、基礎的な知識・素養を養成するための科目である。	現実の経済事象を理解する能力や経済に関する理論的分析力の基礎を理解すること。				0.5	0.3	0.1	0	0.1
S260209	高山 慶子	歴史学特講B	日本史の史料を実際に読み、そこから何が読み取れるのかを考えることで、歴史に対する理解を深める。	地域公共領域の専門科目であり、歴史・歴史学すべての基礎になっている史料への関心と読解意欲を高める。	・日本史の史料を読もうとする意欲をもち、基礎的な読解力を修得する。 ・日本史の史料を実際に読むことで、歴史社会のイメージを豊かにするとともに、歴史への関心を深める。				0.5	0.0	0.5	0.0	0.0
S260101	高山 慶子	歴史学特講A	日本史の特定の時代・テーマについての講義を行い、歴史への理解と関心を深める。	地域公共領域の専門科目であり、特定の時代やテーマについての歴史を深く掘り下げて学び、歴史について考える力を養う。	・日本史を深く学ぶことで、歴史への興味や探求心を養い、歴史・歴史学に対する理解を深める。				0.5	0	0.5	0.0	0.0
S255507	未定	倫理学概論	人生にはすでに答えがある問いよりも答えが無い問いの方がはるかに多い。倫理学は「いかに生きるか」という後者の問いに取り組む学であり、西洋の知識や技術を取り入れるという発想で作られた学校教育制度のなかで、いかにあるべきかは、いまだ模索の途上にある。数々の先人の思想を手がかりに、問いを深める倫理思想史の方法を学んでいく。	言語文化領域の1専門分野である「倫理学」に関する入門編としての意義を持つ。	・倫理思想史に関する基礎知識を身につける。 ・あらかじめ正解が用意されているわけではない問いについて考える力を身につける。 ・社会生活において求められる「いかに生きるべきか」という問いに、倫理学の立場から考えることができる。				0.3	0.3	0.1	0.1	0.2
S254500	小原一馬	社会学概論	社会学の基本的な理論、もの考え方を、それを育んだ知的背景とともに説明していく。	地域公共領域の専門科目であり、社会学的視点をもって地域社会を分析するための基礎的科目である。	・スミス、スペンサー、デュルケム、ジンメル、ウェーバー、マルクスといった人々の社会思想をそれぞれイギリス、フランス、ドイツの知的伝統および歴史との関係で理解すること ・彼らの理論が、現代社会学にどのように影響しているか理解すること				0.5	0	0	0.3	0.2
S254004	塚本 純	経済学概論	ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な経済分析の手法を解説する。	地域社会の様々な問題に関する考察の基礎的能力を養成するための科目である。	・実社会での活動に役立てる能力の基礎として、経済学的ものの見方・とらえ方の特徴を把握し身に付ける				0.6	0.2	0.1	0	0.1

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (地域公共領域)

学習・基盤教育 学習・教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技能と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポーツ健康	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S253008	和田 泰一	政治学概論	ジェンダーや福祉国家、グローバリゼーションといった現代政治理論が取り組んでいる問題も取り上げながら、現実政治参加する市民として必要な基本的政治概念を解説する。	地域社会の様々な問題に関する考察の基礎的能力を養成するための科目である。	・自由、権力、市民、国家といった基本的政治概念を先入観を取り払って理解すること ・受講者が現実の政治に参加するさいに確実な知識に基づいて理性的に討議、選択、決断できること				0.3	0.2	0.2	0.1	0.2
S252650	黒川 亨子	法学特講B	刑事訴訟法の講義を行う。刑事訴訟法とは、国家刑罰権の実現を図るための手続を定める法律である。実際の刑事手続の流れに沿って授業をすすめる。	地域公共領域の1専門分野である「法学」に関する専門科目の発展編として位置づけられる。 なお、高等学校「公民」の免許を取得するための選択科目でもある。	・刑事訴訟法の基本的な概念や理論を理解すること ・実務の現状や問題点を批判的に考察できる力を修得すること ・法学の議論には、具体的争点に対して複数のアプローチや解決の方向があることを理解し、それぞれの立場から最も説得的な議論を組み立てられる力を養うこと				0.3	0.1	0.2	0.1	0.3
S252601	黒川 亨子	法学特講A	刑法の講義を行う。刑法とは、犯罪と刑罰について定める法律である。前半の講義で刑法総論（全ての犯罪類型に共通する成立要件）を、後半の講義で刑法各論（個々の犯罪類型に固有の成立要件）を取り上げる。	地域公共領域の1専門分野である「法学」に関する専門科目の発展編として位置づけられる。 なお、高等学校「公民」の免許を取得するための選択科目でもある。	・刑法の基本的な概念や理論を理解すること ・実務の現状や問題点を批判的に考察できる力を修得すること ・法学の議論には、具体的争点に対して複数のアプローチや解決の方向があることを理解し、それぞれの立場から最も説得的な議論を組み立てられる力を養うこと				0.3	0.1	0.2	0.1	0.3
S252508	黒川 亨子	法学概論	本講義では、わが国の司法制度をその担い手や手続の観点から概観する。また、最高裁判例などの事例も可能な限り紹介し、考察を加える。	地域公共領域の1専門分野である「法学」に関する専門科目の入門編として位置づけられる。 なお、高等学校「公民」の免許を取得するための選択必修科目でもある。	・わが国の司法制度の枠組みを理解し、これからの司法制度のあり方を考えるための基礎的な知識を修得すること ・法学を学んでいくうえで必要な能力（六法全書の使い方や条文・判例の読み方等）を修得すること ・論理的に思考し、法を根拠として自分の意見を表明できるようになること				0.3	0.1	0.2	0.1	0.3
S252007	松村啓子	地誌学概論B	地誌学の基本的な視点と地誌の構成を概観した上で、日本の地方誌および各国地誌を動態地誌的な方法により学ぶ。	地域公共領域における選択科目。世界および日本の諸地域に関する地誌を通じ、現代社会の地理的構成に関する基礎的な知識を授ける。	・地誌の構成と静態地誌・動態地誌の特色についての理解を深める。 ・地誌学習をつうじた地域的特色の追究を、まらおこしへと活用する手法を探る。				0.4	0.0	0.3	0.1	0.2

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (地域公共領域)

学習・基盤教育 学習・教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技能と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポーツ健康	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S251507	松村啓子	地理学概論A	「位置」「地域」等の地理学の基礎概念を手がかりに、具体的な都市や国家の変遷と今日のありようについて学ぶ。	地域公共領域における選択科目。国土や身近な地域に対する興味関心を喚起し、現実の社会事象の分析に有効な地域的視点を養う。	・地域的視点から社会事象をとらえることができる。 ・地形図からの地理情報の読み取りを修得する。 ・市民が理解可能な地理情報を提示するための基礎的な力を身につける。				0.3	0.1	0.3	0.1	0.2
S250505	市来	外国史概説A	中国を中心とする東アジアの前近代における政治・経済・社会・文化などを概観し、日本も含めた東アジア諸国の交流と相互影響を認識すると同時に、異文化理解に際しての歴史の重要性を確認する。	地域公共領域の専門科目であり、現代をいきる市民としてふさわしい外国史の基礎的な教養を身につける。	・中国を中心とする東アジア史の基礎的な知識を身につけ、外国史と異文化を教え考える発想法に触れる。				0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
S250018	高山 慶子	日本史概説B	日本史の古代から現代に至る歴史を、複数のテーマを切り口として概説し、現代社会の成り立ちや身近な生活習慣の歴史的な背景を考える。	地域公共領域の専門科目であり、現代をいきる市民としてふさわしい日本史の基礎的な教養を身につける。	・大学入学以前に学んできた歴史を覚える・覚え直すのではなく、歴史について自ら考え理解を深めることで、知識の定着を図る。				0.3	0.2	0.3	0.0	0.2
S250009	高山 慶子	日本史概説A	日本史の古代から現代に至る歴史を、複数のテーマを切り口として概説し、現代社会の成り立ちや身近な生活習慣の歴史的な背景を考える。	地域公共領域の専門科目であり、現代をいきる市民としてふさわしい日本史の基礎的な教養を身につける。	・大学入学以前に学んできた歴史を覚える・覚え直すのではなく、歴史について自ら考え理解を深めることで、知識の定着を図る。				0.3	0.2	0.3	0.0	0.2
221	松村啓子	地域調査法	地理学習における地域調査のさまざまな手法、調査計画の立て方、調査結果の考察、データの加工、主題図作成の基礎を学ぶ。	地域公共領域の専門科目として、地域の野外調査の計画・立案および調査に必要な地理的技術の習得をめざす。	・身近な地域の観察、市町村規模の調査の計画を立てることができる。 ・地形図の読図および主題図作成の基礎を修得する。 ・景観、土地利用、統計などから、地域の総合的特色をとらえることができる。				0.3	0.0	0.2	0.3	0.2
	山田 有希子	哲学概論	西洋哲学史を概観した上で、とりわけ近代哲学者たちの議論を紹介しながら、主に次の二つの問いに迫る。第一に、哲学において「考える」ということはどのようなことかを明らかにすること、第二に、「自由と責任」という概念に軸に、「いかに生きるべきか」という、古くかつ新しい哲学的問いを探求することである。	地域公共領域の1専門分野である「哲学」に関する入門編としての意義をもつ。	・西洋哲学史に関する基礎知識、および、哲学的に「考える力」を身につける。 ・社会生活において求められる「考える力」とは何か、を考えることができるようになる。 ・現代社会におけるさまざまな倫理問題を認識することができるようになる。				0.3	0.3	0.1	0.1	0.2

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (地域公共領域)

学習・基礎教育 目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技能と幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポーツ健康	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができていく。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
	山田 有希子	哲学特講A	哲学の一分野である「論理学」を基礎に、「論理的に考える力」を身につける。まずは、「考えることを考える」ことから出発し、「哲学的に考える」「科学的に考える」「論理的に考える」という三つの「考える力」を明らかにする。その上で、演習方式も一部取り入れ、実際に「論理的に考える」トレーニングを重ねる。	地域公共領域の一専門分野である「哲学」に関して、その入門編「哲学概論」に続き、より専門的にこの分野への興味関心を喚起する。また、社会生活において求められる「考える力」についての理解と実践力を深める。	「論理的に考える」トレーニングを通じ、社会・公民・教育における「諸問題」に関わる ・他者の論証を正確に理解することができる、 ・自らの主張を論証することができる、 ・他者との対話を構築することができる。				0.1	0.3	0.3	0.1	0.2
	山田 有希子	哲学特講B	哲学特講Aに引き続き、哲学の一分野である「論理学」を基礎に、「論理的に考える力」を身につける。まずは、「考えることを考える」ことから出発し、「哲学的に考える」「科学的に考える」「論理的に考える」という三つの「考える力」を明らかにする。その上で、演習方式も一部取り入れ、実際に「論理的に考える」トレーニングを重ねる。	地域公共領域の一専門分野である「哲学」に関して、「哲学特講A」に続き、より専門的にこの分野への興味関心を喚起する。また、社会生活において求められる「考える力」についての理解と実践力を深める。	「論理的に考える」トレーニングを通じ、社会・公民・教育における「諸問題」に関わる ・他者の論証を正確に理解することができる、 ・自らの主張を論証することができる、 ・他者との対話を構築することができる。 さらに、 ・自らの問題意識の元に、一定の問題について、「立論」「批判」「異論」を展開することができる。				0.1	0.3	0.3	0.1	0.2
S251501	奥井正俊	地理学概論B	系統地理学の輪郭を講義する。地理学の諸部門で用いる種々のモデルを紹介しながら、現実の世界・諸地域をモデルで見ることの意義を説く。	地域公共領域を理解するために必要な地理学の捉え方、とくに系統地理学の入門編としての意義を有する。	・卒業論文作成につながる研究力を身に付ける。 ・地理学における理論・法則・モデルの役割を理解し、科学的思考力を身に付ける。				0.8	0.2	0.0	0.0	0.0
S252001	奥井正俊	地誌学概論A	地誌学の輪郭を講義する。地誌学の対象たる地球地域の見方、とらえ方、調べ方を平易に説明する。したがって、その内容は世界地誌や外国地誌、日本地誌、地方誌などではなくて地理学的見地に立つ地域論である。	地域公共領域を理解するために必要な地理学の捉え方、とくに地誌学の入門編としての意義を有する。	・地球地域を見る確かな観察眼をもつようになる。 ・グローバルな意味での地域多様性概念を修得する。				0.8	0.2	0.0	0.0	0.0
S260500	奥井正俊	地理学特講A	系統地理学の一部門である交通地理学の基礎的事項を講義する。授業の内容は大きく二分される。第1は地理学の分野における交通事象の把握・分析・考察の方法について、第2は近現代における交通事象の実態について、それぞれを平易に説明する。	地域公共領域の専門科目としてわたくしたちの生活に密接な交通事象に対する問題関心を喚起する。	・卒業論文作成につながる研究力を身に付ける。 ・地域のスケールを問わず、各地の交通事情や運輸行政に対して関心を払うようになる。 ・この分野における基礎教養を修得する。				0.8	0.1	0.1	0.0	0.0

教育学部・総合人間形成課程 カリキュラムマップ (地域公共領域)

学習・基盤教育 学習・教育目標	(α) 英語	国際的な通用性を備えた質の高い英語力の基礎が、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能において身につけている。	専門教育 学習・教育目標	(A) 社会や文化の形成に関する知識を修得し、自らの専門領域について深く理解している。 (B) 知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的スキルと幅広い表現力を身につけている。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 社会人としての自覚と責任感をもち、多様な人々と共生しながら社会や文化の形成に貢献できる。
	(β) スポ健	生涯にわたり豊かな生活を送るため、心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解している。		
	(γ) 教養	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を形成していく基礎ができている。		

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号							
						学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す							
						(α)	(β)	(γ)	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
	全教員	卒業研究A	「地域公共文化演習 I・II」の履修を踏まえ、各自師事する専門教員の指導により地域公共領域に関わる専門的なテーマについて卒業論文を作成する。	地域公共領域の専門分野における自己設計カリキュラムによる学習の仕上げである。	各自の専門研究分野やテーマに応じ、思考法や先行研究例などを踏まえた有意義な問いあるいは研究目標を立てることができる。課題解決へ向けて、資料収集や観察などを独自に行い、先行する知見を検証することができる。論理的、科学的な立論により、自らの分析や見解を明晰に述べるることができる。				0.2	0.2	0.2	0.3	0.1